

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 7 月 9 日現在

機関番号：23501

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K17381

研究課題名(和文)日本における「教師教育者」観と教師教育者が教育の倫理に果たす役割に関する研究

研究課題名(英文) Inquiry on How the Roles of "Teacher Educators" Are Perceived in Japan and the Roles They Play in Regards to Teaching the Ethics of Teaching

研究代表者

山辺 恵理子 (YAMABE, Eriko)

都留文科大学・文学部・講師

研究者番号：60612322

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円

研究成果の概要(和文)：教員養成に携わる大学教員が「教師教育者(teacher educator)」として負う、教育における倫理的な問題についての考察を促す役割と責任について、国際的な議論や動向を整理・分析した。そのうえで、教職を目指す学生たちに教育における倫理的な問題を思考する姿勢やコンピテンシーを養おうとする方法論として、主にリフレクション、ケースメソッド、および哲学対話の3つに注目しながら、教育の暴力性や社会正義について考察する研修・教材の開発を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本の大学の教員養成課程には教育に対する批判的なものの見方を養成する科目は必ずしも含まれておらず、各教職科目を担当する大学教員の裁量に任されている。従って、教育活動が作り出す不均衡な力関係や公教育におけるマイノリティーの抑圧の問題など、教育が持つ様々な倫理的な問題について深く思考する機会がないままに卒業して教職に就く学生も存在する。教員養成を担う大学教員の「教師教育者」としての役割の一つに、こうした倫理的な問題について学生たちが深く考え、対話する機会を設けることが含まれるのではないかという提言のもと、具体的な研修・教材を開発した。

研究成果の概要(英文)：The study investigated on how university-based teacher educators can contribute to fostering senses of ethics in prospective educators through classes and workshops. After reviewing international discussions and trends related to this topic, the focus was set mainly on three methodologies: reflection, case method, and Col (Community of Inquiry). Combining the three approaches, original workshops and teaching materials were designed to encourage university students (and in-service teachers) to critically reflect on current educational practices, systems, and cultures from the perspective of ethics and justice.

研究分野：教育学

キーワード：教師教育 教育の倫理 研修開発 教材開発 リフレクション ケースメソッド 哲学対話

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

1. 研究開始当初の背景

教員養成や教員研修を指すいわゆる「教師教育」の研究は、公教育の導入とともに、歴史的に見ても国際的に見ても、広く蓄積されてきた。とりわけ、教師の専門性や資質能力の向上が求められる時代には、教師教育のプログラムやシステムが改めて検討され、改編されてきた。2008年度より全国で開設され、今でも数を増やしている「教職大学院」も、そうした流れの中で生まれたものであると言える。

しかし、教師教育が様々な時代の中で議論されている一方で、その教育を担う「教師教育者」の専門性についての研究は、ほとんどなされてこなかった。国際的には1980年代からやや増えるものの(例えば、Heather Carter (1984) “Teachers of Teachers” In Katz & Rath (eds.) *Advances in Teacher Education.*, Vol.1, pp.125-144)、国内では2010年以降にならないとほぼ見られない。その頃から「教師教育者とは何者か」、「教師教育者はどのような専門性を持つ(べき)か」といったことが議論されるようになり、徐々に「教師教育者」研究の土台が築かれつつある状況にある(例えば、坂田哲人(2010)「教師教育者に関する研究動向」武蔵大学総合研究所紀要(20) pp.123-132、武田信子(2011)「教師教育実践への問い：教師教育者の専門性開発促進のために」日本教師教育学会年報(21) p.8-18)。

さらに、海外の教師教育者研究および教師教育者養成プログラムの実践を見たうえで、日本の諸研究を比較すると、1点重大な違いが見て取れる。それは、「教育の倫理」についての重視度の違いである。例えば、アメリカやオランダなどで作成されている「教師教育者スタンダード」を見ると、そこには能力開発に関わる事項のほか、「教育の倫理」に関わる事項が並んでいる。例えば、アメリカの教師教育者協会作成のスタンダードには、「文化的な能力(cultural competence)」として、ダイバーシティへの配慮やそれを原因とした衝突への対応能力が掲げられ、「公的なアドボカシー(public advocacy)」としてマイノリティーや社会的弱者の立場に立って教育の平等などを主張することが唱えられている。また、オランダのスタンダードでも、「教師教育者は、自身の価値観、規範、教育的主義主張に自覚的である」ことが必要であることが述べられている。これらの国では、教員養成課程でも「教育の倫理」に関する科目を履修しなければならないことになっていることが少なくない一方で、日本では「教育原理」などの教職科目の中で倫理に関する事項を教えることはあるが、必須ではなく、指針も示されていないため、各科目の担当教員の裁量に大きく任されていると言える。また、教師教育者が自らの役割について語る中で「教育の倫理」を守る者ノについて教える者としてのアイデンティティーを語ることも少ないのが現状である。

2. 研究の目的

本研究は、主に なぜこのような国際的な違いが生じているのか、その違いによって「教師教育者」の専門性についての観念にはどのような違いが生じているのか、を分析することを目指すものとして、始動した。しかし、研究を進める中で、当初予定していた文献研究とヒアリング調査だけではそれらの本質的な要因を把握するには不十分であることから、「教育の倫理」を守る者ノについて教える者としてのアイデンティティーを実際に持っている欧米の教師教育者が実践している教師教育プログラムについて視察・ヒアリング等を行い、それらのプログラムの意義と汎用性について分析すること、および それらのプログラムに基づき、日本の教師教育に適応可能な独自の教師教育プログラムを開発することに重点をシフトした。

3. 研究の方法

- (1) 一貫して、国内外の関連する取組に関する情報収集と文献研究を行った。
- (2) 以下の視察・ヒアリング調査を実施した。

初年度に当たる平成28年度には、教師教育にも携わるオランダの現職の高校教諭(Ashram Collegeに勤務するWilly Wijnands氏)へのヒアリング調査と実践(生徒自身が協働学習のプロセスを可視化し、マネジメントできるようになることを支える「eduScrum」と呼ばれる教育方法)の視察を行った。教師による画一的な教授が持つ暴力性を訴え、生徒の主体性を発揮しやすい授業づくりを提唱するWijnands氏の活動は、教育の倫理性を意識した学校ベースの事例として重要である。

平成29年度は、「ケースメソッド」および「哲学対話(CoI; Community of Inquiry)」と呼ばれる教育方法をういた教師教育プログラムに注目した。とりわけ「哲学対話」については、アメリカ・ハワイ大学の教員養成プログラムの視察および担当教員らへのヒアリング調査を実施した。

平成30年度には、再度ハワイ大学において「哲学対話」を実践する教師教育者へのヒアリングを行った他、その実践を展開しながら教師の成長を促す独自の取り組みを展開している地域の小学校(Hanahau'oli School)において視察と校長を含む複数の教師へのヒアリング調査を実施した。さらに、実践と理論をつなぐために「リフレクション」を軸に置く教師教育プロ

ラムを開発したことで著名なオランダ・ユトレヒト大学名誉教授の Fred A. J. Korthagen 氏のもとを訪れ、教師教育者を対象とした研修に参加した。

(3) 独自の教師教育プログラムの開発・実施

上記の研究を通して得た知見をもとに、eduScrum、ケースメソッド、哲学対話、リフレクションのそれぞれの手法を用いた独自の教師教育プログラムを、日本の制度においても適用可能な形で複数開発し、実施した。

4 . 研究成果

上述の通り、eduScrum、ケースメソッド、哲学対話、リフレクションのそれぞれの手法を用いた独自の教師教育プログラムを、日本の制度においても適用可能な形で複数開発し、実施した。とりわけ の教師教育プログラムについては、現代社会の教育制度や教育文化、および各学習者自身の教育観を、倫理的な観点から批判的に問い直す内容との親和性が極めて高く、学習効果も得られることがわかった。それぞれのプログラム詳細、および国際比較を行った際の日本の教師教育における「教育の倫理」の扱いに関する考察については、今後論文等の形で発表する予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 0件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Eriko YAMABE	4. 巻 1
2. 論文標題 Globalization in Japanese education: T-SAP as a catalyst in preparing “ignorant” teachers that can be accelerators rather than obstacles for learning	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Global Educator: Annual Report of the Department of Global Education at Tsuru University	6. 最初と最後の頁 14-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 丸橋静香、村松灯、田中智輝、渡邊優子、町支大祐、山辺恵理子、竹内伸一、丸山恭司	4. 巻 117
2. 論文標題 研究状況報告 ケースメソッドと教育哲学	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 教育哲学研究	6. 最初と最後の頁 105-111
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Eriko Yamabe	4. 巻 3
2. 論文標題 Missing Pieces in the Japanese Argument of "Zero Tolerance Policies in Schools: Framework and Attempt to Connect the Arguments of Teachers and Researchers	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Teacher Education Research: Journal of the Center for Teacher Education Research	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件／うち国際学会 1件）

1. 発表者名 村松灯、田中智輝、渡邊優子、町支大祐、山辺恵理子
2. 発表標題 スクールリーダー養成をめぐる今日的課題とケースメソッド
3. 学会等名 教育哲学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Eriko Yamabe
2. 発表標題 Rethinking the Ethical Validity of Restorative Justice in Education
3. 学会等名 World Educational Research Association (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計7件

1. 著者名 一般社団法人学び続ける教育者のための協会(REFLECT)、坂田 哲人、中田 正弘、村井 尚子、矢野 博之、山辺 恵理子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 学文社	5. 総ページ数 128
3. 書名 リフレクション入門	

1. 著者名 ネットワーク編集委員会(編) 佐伯 胖、大島崇行、石井英真、山辺恵理子、村井尚子、藤原友和、佐内信之、石川 晋、阿部隆幸、前田考司、栗田佳代子、若狭谷知子、薄 玲那、齋藤幸男、上條晴夫、渡辺貴裕、脇本健弘、高尾 隆、刑部育子ら	4. 発行年 2019年
2. 出版社 学事出版	5. 総ページ数 128
3. 書名 授業づくりネットワークNo.31 リフレクション大全	

1. 著者名 ミーケ・ルーネンベルク、ユリエン・デンヘリンク、フレット・A・J・コルトハーヘン(著)、武田信子、山辺恵理子(監訳)、入澤充、森山賢一(訳)	4. 発行年 2017年
2. 出版社 玉川大学出版部	5. 総ページ数 216
3. 書名 専門職としての教師教育者：教師を育てるひとの役割、行動と成長	

1. 著者名 山辺恵理子、木村充、中原淳	4. 発行年 2017年
2. 出版社 北大路書房	5. 総ページ数 160
3. 書名 ひとはもともとアクティブ・ラーナー！：未来を育てる高校の授業づくり	

1. 著者名 栗田佳代子、日本教育研究イノベーションセンター、市川桂、小原優貴、川瀬 和也、佐藤浩章、中村長史、成田秀夫、山辺恵理子、吉田壘	4. 発行年 2017年
2. 出版社 河合出版	5. 総ページ数 233(105-118)
3. 書名 インタラクティブ・ティーチング：アクティブ・ラーニングを促す授業づくり	

1. 著者名 中原淳、服部泰宏、今城志保、館野泰一、溝上慎一、中澤明子、見館好隆、高崎美佐、尾形真実哉、松尾睦、関根雅泰、保田江美、齋藤光弘、福山佑樹、高橋 興史、高尾義明、島田徳子、国保祥子、浜屋祐子、辻和洋、田中聡、町支大祐、脇本 健弘、山辺恵理子、吉村春美、孫大輔、伊勢坊綾	4. 発行年 2017年
2. 出版社 東京大学出版社	5. 総ページ数 900(685-704)
3. 書名 人材開発研究大全	

1. 著者名 荒木寿友・藤本文 編著 荒木紀幸・西野真由美・藤原孝章・山岡雅博・山辺恵理子・武藤世良・小田 亮・川本哲也・林創・岡田有司・藤井基貴・上田仁紀・久保田笑理・堀田泰永・竹内和雄・木原一彰・幸 田隆・藤原由香里・星美由紀・鈴木憲・鈴木賢一・松尾廣文・高野阿草・六車加代	4. 発行年 2019年
2. 出版社 北大路書房	5. 総ページ数 267
3. 書名 道徳教育はこうすれば もっと おもしろい:未来を拓く教育学と心理学のコラボレーション	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----